

地震発生時 避難の注意点

ご近所と声をかけ合いましょう

地震などにより、避難の必要がある時、または避難の呼びかけがある時は、ご近所の人たちと声をかけ合い、速やかに避難してください。



電気やガスの元栓を閉めましょう

避難の際には電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めましょう。電気やガスが復旧した際に、出火する危険性があります。電話の受話器も戻しておきましょう。



初期消火に協力を

天井に燃え移る前の火が小さい初期段階であれば、周囲の人に大声で知らせ、協力して初期消火器具や風呂の残り湯などを利用して消火できます。



要配慮者への支援を

高齢者や体に不自由のある方、地震で怪我をされた方は、災害時に避難行動や避難生活などで困難な状況に置かれることが多いので、周囲の方々は積極的に支援・協力してください。



帰宅困難になったときの心得

外出先で大地震が発生した場合は、「むやみに移動を開始しない」ことが前提ですが、やむを得ず徒步で帰宅する際は、以下の心得をもとに、適切な行動をとってください。

徒步帰宅の心得7カ条

留まる

- 連絡手段、事前に家族で話し合い
- 携帯も、ラジオも必ず予備電池

知る

- 日ごろから、帰宅経路をシミュレーション
- 災害時の味方、帰宅支援ステーション

帰る

- 職場には、小さなりュックとスニーカー
- 帰宅前には、状況確認
- 助け合い、励まし合って徒步帰宅

震度階級

揺れなどの現象や被害の目安

日ごろから地震の被害をイメージし、いざという時に速やかな対応ができるよう、心がけておきましょう。

4		震度4	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの人が驚く。 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 座りの悪い置物が、倒れることがある。
5弱		震度5弱	<ul style="list-style-type: none"> 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 棚にある食器類や本が落ちることがある。 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。
5強		震度5強	<ul style="list-style-type: none"> 物につかまらないと歩くことが難しい。 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。 固定していない家具が倒れることがある。 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

	6弱	震度6弱	<ul style="list-style-type: none"> 立っていることが困難になる。 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。 ドアが開かなくなることがある。 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。
	6強	震度6強	<ul style="list-style-type: none"> はなないと動くことができない。飛ばされることもある。 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体崩壊が発生することがある。
	7	震度7	<ul style="list-style-type: none"> 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるのが多くなる。